

そろいのはんてんを着て「輝龍太鼓」を披露するら、6年生



先輩の思いつなぐ太鼓

一関・弥栄小

思いをつなぐ太鼓の音色
一。一関市の弥栄小(栃内
宏之校長、児童35人)で16
日、同校の伝統芸能「いや
さか太鼓」の引き継ぎ式が
行われた。先頭に立ち下級
生を引っ張ってきた6年生
2人と、その姿を見てきた
4、5年生14人が決意の演
奏を披露。受け継がれたほ
ちとともに、歴史と伝統は
続いていく。

「やー」「それ」。体育
館に元気なかけ声と力強い
太鼓の音が響いた。4年生
以上がつかないできたいや
さか太鼓。3曲の演目の中
から5、6年生8人で「輝龍
太鼓」、4、5年生14人で
「いやさか太鼓」を披露し、
在校生や保護者らから温か
な拍手が送られた。
6年生から5年生にばち
が手渡され、5年リーダー
の千葉奏亮君は「今まで手
本となり、頑張ってくれて
ありがとうございます」と
感謝。「在校生は6年生の

今度は自分たちが手本に 「いやさか」決意込め演奏

気持ちを受け、伝統をつな
いでいこう」と決意した。
現弥栄小が開校した19
90年、新しい学校の伝統
をつくらうと当時の教員ら
によって始まった太鼓。「い
やさか」には「いつまでも
弥栄小が地域と共に発展し
てほしい」という願いが込
められている。上級生が下
級生に指導し継承されてき
た音色は、学習発表会や地
域の祭りで披露され、住良
らにとっても思い入れのあ
るものとなっている。

最後のステージを終え
た、ともに6年の井上柁春
君は「先輩に大大鼓を教え
てもらったのが懐かしい。
今日は自分なりに精いっぱい
演奏できた」と振り返り、
山崎いちかさんは「低学年
の時に先輩をカッコいいと
思っ、その姿を目指して
練習を頑張ってきた。少し
さみしいがみんなでたたく
ことができ良かった」と
うなずいた。
そして2人は「たくさん
練習して、引き継がれてき
た伝統を守ってほしい」と
後輩にエールを送った。
(佐々木杏里)